

バッハ・コレギウム・ジャパンを迎えて開催 関東学院小学校「創立70周年記念コンサート」

横浜みなとみらいホールで開催された記念コンサートの報告と共に
岡崎一実校長に記念事業の意義や今後の展望をお聞きしました。



創立70周年の最後を飾る バッハの教会カンタータ

昨年、創立70周年を迎えた関東学院小学校。年度を通じた記念事業の締め括りとして、今年2月27日、横浜みなとみらいホールで創立70周年記念コンサートが開催されました。バッハの演奏団体として世界的に有名なバッハ・コレギウム・ジャパン（以下、BCJ）を迎えて、児童と保護者、教職員、卒業生、学院関係者、来賓など約千二百人が集いバッハの音楽を堪能しました。

同小学校は在学中にたくさんの夢のたまごに出会う機会として、本物の人・もの・コトを体験する《夢のたまごプログラム》を展開しています。そこで2019年にBCJを迎えてクリスマスコンサートを開催した経緯があり、今回のコンサートに繋がりました。音楽史上最も重要な作曲家であるバッハは、偉大な宗教音楽家でもあります。今回はバッハの教会カンタータを中心にプログラムが構成されました。

事前学習で理解を深め 本物の芸術に触れる

子ども達はよりコンサートを楽しめるよう、昨年9月から今年2月まで、全クラス10時間ずつ特別授業を受けて事前学習しました。講師を務めてくださった柳沢藍さんは、フランスの学校で音楽・芸術を教えることができる音楽家の国家資格「DUMI」を日本でただ一人取得している方で、バッハやカンタータ、古楽器、コンサートのマナーなどを楽しく、わかりやすく教えていただきました。また、2月の学習発表会で「バッハにあいにいったよ」と題したオリジナル劇やドイツ語の賛美歌を披露した1年生は、このコンサートでも重要な役割を演じます。

子ども達も参加して 笑顔と感動があふれる

コンサートのオープニングは、BCJの首席指揮者でありオルガニストの鈴木優人さんが登場し、パイプオルガンで「トッカータとフーガニ短調 BWV 565」を迫力満点に独奏。

続いて岡崎一実校長が登場し「バッハのカンタータは神様を賛美する音楽です。コンサートの中にある、たくさんの夢のたまごを探しながら聴いてください」とメッセージを送りました。その後はメンバーが次々登場し、カンタータを数曲披露。世界から集まった音楽家による圧巻の歌声と演奏を楽しみました。第二部では、学習発表会で「バッハにあいにいったよ」を演じた1年生がステージに登場。



可愛いミニバッハには皆が笑顔に

BCJの首席指揮者でありオルガニストの鈴木優人さん

その後方には、本来ならば5年生の時に学院クリスマスコンサート（2021年度はコロナ禍の影響で中止）で聖歌隊としてこのホールに出演するはずだった6年生も並び、ルターの賛美歌をドイツ語で合唱するなどBCJと共に演じて拍手喝采を受けました。

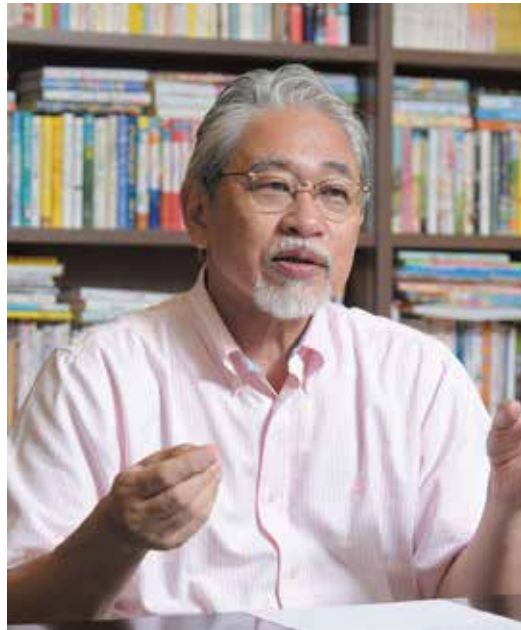
その後も演奏家による古楽器の紹介など楽しい演出が続きます。本編最後のカンタータの演奏が終わると、学習発表会でバッハ役を演じた1年生が可愛いミニバッハ姿で登場して花束を贈呈。BCJの皆さんも大喜びでした。そしてアンコールの「カンタータ第147番 主よ、人の望みの喜びよ」の美しい調べで終演。70周年の締め括りにふさわしい感動のひとときとなりました。

今回のコンサートと特別授業は、教員の企画立案と運営により実現しました。70周年記念事業は全て終わりましたが、同校では今後もポストコロナ時代の新たな学校行事の形を模索し、子ども達が夢のたまごと出会える学びを実践していきます。

岡崎校長「周年事業を新たな歩みへのステップに」 子ども達の記憶に残る1年に

私が校長に就任した2012年は、創立60周年の年でした。校舎の解体・改築時期と重なり校務に忙殺され、記念のポストカードを作るだけで精一杯でした。そこで65周年は「子ども達の思い出に残る1年にしよう」と、記念礼拝や施設改修、オリジナルグッズ制作など様々な記念事業を行いました。また、5年ごとに記念イヤールを設ければ、子ども達は在学中に一度はそれを体験することになります。

70周年では教員の皆さんがチームを作り1年前から準備を進めました。昨年10月に実施した記念礼拝を中心に、記念コンサート、そして前号で触れたライブラリー改修や、オリジナルチェックのマフラーとストール、ビッグベア、フォトフレーム、保護者会によるオリジナル缶入りビスカウトなどの記念グッズを制作しました。また、70周年を機に、体操服とラン



関東学院小学校 校長

岡崎 一実



70周年に誕生したビッグティディベアは子ども達に大人気

なぜ「選べる」がコンセプトなのか

最近、何事も自分で決められない子どもが増えているという話を耳にします。周囲に気兼ねして自分の意見が言えない、自分で決めたくないなど理由は様々だと思います。本校の教育目標の一つが、「自分で考え、判断し、

行動しようとする子」を育てることです。服装一つにしても、自分で選択することは大事な経験です。さらに、多様性の尊重があります。少数派の人が多数派に気兼ねすることなく、誰もが好きなものを選び、個性を受け入れる態勢を学校として整えたいと考えました。

伝統を守りながら変革に挑戦

年間を通じた記念事業の意義とは何か。歩みを振り返り、現在の立ち位置を確かめることで75周年、100周年に向けた新たな一歩を踏み出す足場を固めることだと思います。70年の歴史の中で醸成されてきた風格や佇まい、それは揺るぎないものです。伝統を受け継ぎながら変革に挑戦することが、今を担う私達の使命ではないでしょうか。残された任期の中でそれを繋いでいくことが次なる課題だと思っています。



体操服は緑と白の2色展開
ランドセルは色もデザインもスタイリッシュ